

様式第 2 (第12条関係)

加入国際学術団体に関する調査票

1 国際学術団体活動状況 (内規第 11 条 活動報告)

団体名	和	アジア科学アカデミー・科学協会連合
	英	The Association of Academies and Societies of Sciences in Asia (略 称 AASSA)
	団体 HP (URL)	http://aassa.asia/ http://aassa.asia/ (日本学術会議が加盟していることの記載 ☒ 有 ・ 無)
国際学術団体における最近のトピックについて (学術の進歩、当該団体の推進体制の変化、国際機関・政府・社会との関わり方等)		IAP (科学アカデミーのグローバルネットワーク) の 4 つの地域付属ネットワーク組織の 1 つとして、特にアジア域内における科学教育、科学・工学における女性の活用促進、健康、食糧問題等といった共通のトピックをワークショップ等で議論し、その成果を対外公表するなど近年非常に積極的に活動している
政策提言や世界の潮流になりそうな研究テーマ・研究方式・研究助成方式等について		IAP においても重視されている科学教育、科学・工学における女性の活躍促進、健康、食糧問題等の各国共通の横断的課題を中心に、通常の会議に加え、加盟国の専門家を集めて委員会を立ち上げるなどして議論している
日本人役員によるイニシアティブ事項や日本からの参加によって進展や成果があったものについて		2012 年 1 月 1 日に合併により設立され、日本学術会議の加盟は 2014 年のため、まだ日本人役員がいない
加入していることによる日本学術会議、学会、日本国民への効果やメリットについて		日本学術会議は日本を代表して IAP に加盟しているが、アジア及び南洋州地域をカバーする AASSA を通じて IAP におけるプレゼンスを確保することは、科学技術分野における国際的な政策提言や枠組み作りが日本に有益なものとなる上で重要である。アジア地域における科学者のネットワークは未発達であり、AASSA を通じた研究交流活動は、日本の科学者が活躍しやすい環境づくりに資するものである。また、アジア地域においては、科学技術の社会への適用がとくに求められており、日本の科学技術を地域の発展に活用することで、日本の科学技術自体の発展が促される。
その他 (若手研究者・女性研究者育成法、科学者の倫理に関する当該国際学術団体の基本方針や憲章、資金提供ソースの発掘における画期的な方策等の特記事項など)		アジア域内の科学教育の推進、科学・工学における女性の活用促進・女性科学者の育成として活動成果を論文集として発行したほか、アジア域内での持続可能な開発の促進も行う

様式第 2 (第12条関係)

2 今後の予定について (内規第 11 条 活動報告)

総会、理事会の日本開催の予定について (招致等の予定も含め)	2017 年 2～3 月の日本でのワークショップの開催を企画中
日本人の役員立候補等の予定について	役員立候補を検討中
現在、検討中の日本からの提言や推進するプロジェクト等の動きについて	2016 年 2 月、野口伸先生 (23・24 期連携会員、北海道大学大学院農学研究院教授) を IAP プロジェクトである食糧安全保障問題に関する専門家委員会に推薦。

様式第 2 (第12条関係)

3 国際学術団体会議開催状況 (内規第 11 条 活動報告)

総会・理事会・各種委員会等の状況 (過去 5 年間及び今後予定されているもの)	総会開催状況	2016 年 (開催地: トルコ)、2014 年 (開催地: インド)、2012 年 (開催地: スリランカ)			
	理事会・役員会等開催状況	2015 年 (開催地: 韓国)、2013 年 (開催地: フィリピン)、			
	各種委員会開催状況	2014 年 (開催地: 韓国) アジアにおける持続可能な開発計画特別委員会Ⅱ専門家会合 [Expert Meeting of Phase Two of the Sustainable Development in Asia Project] 2014 年 (開催地: インド) 科学技術における女性特別委員会専門家会合 [Expert Meeting of the AASSA Special Committee on Women in Science and Engineering] 年 (開催地:)、年 (開催地:)			
	研究集会・会議等開催状況	※地域ワークショップ [Regional Workshop] を年数回各地域で開催 (開催状況は下記の通り) のほか、2 年に 1 回、総会開催に合わせた国際シンポジウム、不定期でワークショップを多数開催。 2016 年 (開催地: ネパール)、2015 年 (開催地: 韓国)、2015 年 (開催地: トルコ)、2014 年 (開催地: アルメニア)、2014 年 (開催地: トルコ)、2014 年 (開催地: カンボジア)、2013 年 (開催地: インド)、2013 年 (開催地: ロシア)、2013 年 (開催地: オーストラリア)、2012 年 (開催地: ロシア)、2012 年 (開催地: アゼルバイジャン)、2012 年 (開催地: タジキスタン) 年 (開催地:)、年 (開催地:)			
上記会議等への日本人の参加・出席状況及び予定		2014 年定期総会 (インド)、2 人 (相原 博昭) 2015 年国際シンポジウム・理事会 (韓国)、2 人 (吉野 博)			
国際学術団体における日本人の役員等への就任状況 (過去 5 年)		役職名	役職就任期間	氏名	会員、連携会員の別
			～		(期) 会員・連携
			～		(期) 会員・連携
			～		(期) 会員・連携
			～		(期) 会員・連携
			～		(期) 会員・連携
			～		(期) 会員・連携
			～		(期) 会員・連携
出版物	1 定期的 (年 回) 主な出版物名				
	2 不定期 () 主な出版物名: 共同プロジェクトが活動の中心				
活動状況が分かる年次報告等があれば添付又は URL を記載 http://aassa.asia/about/objectives.php http://aassa.asia/common/download/2015_AASSA_Brochure_final_v2.pdf					

様式第2 (第12条関係)

4 国際学術団体に関する基礎的事項 (内規第3条、4条、5条)

国内委員会 (内規4条第3号)	委員会名	アジア学術会議等分科会
	委員長名	吉野 博
	当期の活動状況	(開催日時 主な審議事項等) 主な審議事項 ; SCA 年次会合、SCA の今後の方針、国際学術団体についてなど 開催日時 ; 2014 年 12 月 15 日 2015 年 2 月 4 日 (メール審議) : 派遣 2015 年 3 月 6 日 2015 年 4 月 15 日 (メール審議) : 外国人招聘 2015 年 7 月 17 日 2015 年 10 月 15 日 (メール審議) : 派遣、外国人招聘 2015 年 11 月 13 日 2016 年 2 月 1 日
内規第3 (国際学術団体の要件関係)	国際学術交流を目的とする非政府のかつ非営利的団体である ☒ 1. 該当する 2. 該当しない ※根拠となる定款・規程等の添付又は URL を記載 (http://aassa.asia/about/constitution.php http://aassa.asia/common/download/AASSA_Constitution.pdf)	
	各国の公的学術機関及び学術研究団体等が国際学術団体に国を代表する資格を有して加入するものが、主たる構成員となっている (主たる構成員が、いわゆる「国家会員」であるか否か) ☒ 1. 該当する 2. 該当しない ※根拠となる資料の添付又は URL を記載 (http://aassa.asia/about/constitution.php http://aassa.asia/common/download/AASSA_Constitution.pdf)	
	下記の事項 (ア～エ) のいずれか一つに該当するか (該当するものに○印) ア 個々の学術の専門分野における統一のかつ世界的な組織を有するもの イ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、統一のかつ世界的な組織を有するもの ウ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、ア又はイの国際学術団体を連合した世界的組織を有するもの	
	☒ エ 構成員のうち、各国代表会員がアジア地域等我が国が関係する地域等に限られるものであって、当該国際学術団体の研究の領域が複数の専門分野にわたるもの	

様式第 2 (第12条関係)

	10 カ国を超える各国代表会員が加入している ①. 該当する 2. 該当しない	
	加入国数及び 主要な各国代 表会員を 10 記載	(30 ケ国) ・ 各国代表会員名／国名 ・ Korean Academy of Science and Technology 韓国 ・ Indian National Science Academy インド ・ Bangladesh Academy of Sciences バングラデシュ ・ Turkish Academy of Sciences トルコ ・ Academy of Science Malaysia マレーシア ・ Mongolian Academy of Sciences モンゴル ・ Chinese Academy of Sciences 中国 ・ Far Eastern Branch of the Russian Academy of Sciences ロシア ・ The Academy of Sciences of IR Iran イラン ・ Science Council of Japan 日本